

学校制度をどう改革したらよいか

- 宇都宮市教育委員会、学校制度に関する懇談会第6回会合で考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。

今日は、宇都宮市の教育委員会で行われております、学校制度に関する懇談会という会合が11月5日の月曜日にありました。それについてみなさまに御報告させていただきます。私も委員の一人に入らせていただいております。ご関心を持っていらっしゃる方もいるかと思しますので御報告させていただきます。

2. 学校制度をどう改革したらよいか - 宇都宮市教育委員会、学校制度に関する懇談会第6回会合で考える

(1) 今回の会合は第6回目でした。何を議論しているか。宇都宮市は50万人以上人口がいるすばらしい市です。学校教育の水準の向上を目指す先駆的な研究の推進、どのように学校教育の水準を向上させたらよいか。先駆けの研究としてテーマでやったらよいか。これを研究をしています。それから、学校制度そのものを、どのように変えたらよいか。小学校と中学校の関係をどのように考えたらよいか、また変えたらよいか議論しています。

(2) いちばん最初のテーマの学校教育の水準を向上させるためには、どんなことをテーマにしてこれから宇都宮市の教育委員会として取り組んだらいいのか、宇都宮の小学校・中学校あげて取り組んだらいいのかという議論がありました。そのテーマがだいぶ煮詰まってきました。

(3) 一つは、「宮っ子」つまり、宇都宮の子どもとしての必要な資質や能力・態度をどう習得させたいらよいか。具体的に言いますと、「宮っ子シチズンシップ」といいますが、「宇都宮の子どもとしての市民性」をどう高めたらよいか議論されました。私の意見は「自律心」を育むことが大切であるということです。「自分で自分自身を律することのできる」という意味での自律心を向上したらいいのではないかと意見を述べさせていただきました。宇都宮の市民としての自律性をどういうふうにしたら高めるのか。

(4) 2つ目は、美しい日本語を学んで、日本人らしいコミュニケーションの力を身に付けるにはどうしたらいいかということ、宇都宮市の教育のテーマにすべきことを申し上げました。ですから、国語を大事にしましょうということです。

(5)それから、宇都宮市でせは芸術・文化を非常に大切にしようみんな頑張っています。それについても技能をどんなふうに向きさせたらいいのか、とりわけ芸術・文化についての取り組みをどうしたらいいか。それを議論すべきであります。さらには、これからは外国人とか外国の文化を非常に大切にしなければいけません。外国人や外国との文化交流を通して、国際的なコミュニケーションの力をつけなくてはなりません。

(6)そのために、外国の小学校・中学校との授業、その他を通しての児童・生徒・先生方の交流活動も大事です。例えば、東京都の墨田区にあります両国中学校では、韓国に修学旅行にこのあいだ行ってきましたそうです。外国に修学旅行に行くような東京の墨田区立の両国中学校のような学校もあります。もしかしたら宇都宮市の中学校でも、外国へ修学旅行に行った方がいいかもしれません。私はそう思います。

(7)不登校の児童に対して、学校がなかなかなじまない子に対してどんなふうに向き力を向上させたらいいのか。具体的にはもっと家庭訪問を増やしたり、「e-learning(イー・ランニング)」といいですか、コンピューターを使った遠隔地の勉強方法のシステムを構築することも大事であります。

(8)外国の方が日本にこれからは、いっぱい入ってきます。外国から日本に入ってきた方の子もたちの日本語の能力をどんなふうに向きさせたらいいか、真剣に取り組む必要があります。日本語の能力にはいくつか段階があると私は考えます。

第1は、生活ができるだけの日本語、つまり「生活日本語」です。第2は、「学習日本語」です。子どもたちは皆学校に行きますから学校の授業を受けるためには、とても生活できるだけのレベルの日本語では対応できません。

学校の授業を受けることができるくらいの能力日本語、つまり学習日本語が必要です。学校で学習することのできる日本語能力、これも大事です。

もうちょっと難しい「受験日本語」です。中学3年間が終わりますと、ほとんどの方が高校入試を受けます。高校入試の日本語が更に難しい。生活できるくらいの「生活日本語」、それから学校の授業を受けることのできる「学習日本語」だけではなかなか高校入試の問題が解けません。入学試験に対応できるだけの日本語、これ「受験日本語」と私は言っていますが、「受験日本語」を、どんなふうに向き付けさせるか見につけてもらうか、これが日本で生きていく上でとても大切と考えます。さらには、高校を卒業すると大学、短期大学、専門学校などの入試も受けるわけです。私が耳にしたところでは、宇都宮大学にもたくさん留学生がいますけれど、何年も何年もかけなければ合格しない。高校卒業後6年、7年も年月をかけて、宇都宮大学に行きたいということで受験勉強して宇都宮大学に入った外国の方がいらっしゃいます。そのくらいですね、母国語では力があるのだけれども、日本語の大学入試の問題を解くまでには本当に時間がかかります。このような「受験日本語」も大事かなと思います。

(9)外国の企業、外国の会社に日本に来てもらうためにはどうしたらよいのか、栃木県に来てもらったり、宇都宮市に来てもらうためにはどうしたらよいのか。最も大切なことの一つは、授業を全部英語でやる学校が最低一は必要ということです。これを「インターナショナル・スクール」といいます。私が特にお願いしたのは、ぜひ宇都宮に外国の企業を誘致したいということです。すばらしい外国企業が来てくだされば新たな雇用が生まれます。それからまた、外国企業は、税金も落としてくれます。それからまた、外国の企業が来れば切磋琢磨し、イノベーションが生まれ、日本の企業もよくなったり、宇都宮市の企業もよくなります。下請けの会社も非常に多くなります。このように、宇都宮市の経済も活性化して、最終的には税収も増えます。そのためにやはり、外国の方は単身赴任は余りしないようです。みんな家族といっしょに来ますので、英語で全部授業が受けられる「インターナショナル・スクール」つくるべきです。是非空いている小学校・中学校の一つの校舎だけでも使い、作っていただくとありがたいと思います。「インターナショナル・スクール」が外国企業誘致には不可欠です。

(10)小学校と中学校を一緒にした教育も今後は、推進した方がいいと考えます。実験的に小学校・中学校を一貫した学校を作ることも大事。また、理科、社会、国語、数学、英語などの科目については、できたらですね、小学校の高学年については中学校の先生が教えた方がいい科目もあります。また、逆にそうすると小学校の先生が中学校で教えたほうがいい科目もあります。小学校を中学校の間で、先生方の行き来をもっともっと活発にしていきたいと思います。

(11)最後にですね、特別支援教育については一人ひとりの良さや努力を認めあう共生教育を実現していただきたい。このような趣旨での特別支援学校の設置も大事かなと思います。

3. おわりに

このような、これからの学校制度を考える上で大切なテーマを今、宇都宮市の教育委員会の学校医制度に関する懇親会では、真剣に話し合っています。皆様はどのようにお考えですか。

以上

2008年8月21日加筆